



↑5月5日の無料 DAY。会場となった
駐車場は朝からいっぱい！

4月29日～5月1日、5月3～5日

「縄文体験・体感 WEEK！」開催。

ゴールデンウィーク期間中の6日間、さまざまな縄文体験が楽しめるイベント「縄文体験・体感 WEEK！」を開催しました。今年は3年ぶりに無料 DAY も行い、多くの家族連れでにぎわいました。

火おこしが親子に 大人気！

人気の火おこし。無料 DAY は朝から並び、あっという間に定員となる回も！うまく火おこし器を動かさず家族みんなで協力したり、急に火がついてびっくりしたり…と、楽しげに体験している姿が多く見られました。



イノシシ土鈴やサクラのストラップなど、日替わりで登場するメニューも人気を集めました。

期間中、200人が参加！ 縄文の丸木舟作り

今秋完成予定の「丸木舟」。丸太をひっくり返し、舟の外側を削り始めました。小さなお子さんから大人まで200人以上にご協力いただき、期間最終日には、なんとなく舟らしいカーブができたような…？



会場：縄文村資料館 2階企画展示室
会期：2022年7月3日まで

大崎市北部に位置する北小松遺跡は、縄文時代晩期から弥生時代中期にかけての遺跡です。当時の遺跡周辺は広大な沼地（湖沼）が広がる地形環境にあり、なだらかな丘陵斜面から低地にかけて集落が営まれました。

今回の企画展では、遺構や遺物の保存の状況がきわめて良好で、集落全体の様子が明らかになった北小松遺跡の発掘成果をもとに、湖沼のほとりで営まれた縄文のムラと人々の生活を紹介します。

中央の展示ケースに再現されたヒトのお墓。40代くらいの男性のもので、足を強く折り曲げ、頭と足には大きな鉢をかぶせて埋葬されています。

みどころ 1 ヒトとイヌのお墓。



1歳から3、4歳くらいの若いイヌ3体がほぼ同時に埋葬されています。体高（肩までの高さ）は38～42cmで柴犬と同じくらいの大きさです。

みどころ 2 遠くの村とのネットワーク

山から…？ ▶▶▶

多くの石器に利用されている頁岩という石は、そのほとんどが奥羽山脈を越えた地域からもたらされたもの。糸魚川周辺でしかとれないヒスイやネフライト、また月山や北上地域、信州産の黒曜石、山形産の天然アスファルトも見つかっています。また、石斧や石棒は遠くのムラから製品としてもたらされたものとみられます。



海から…？ ◀◀◀

骨角器の多くは、集落周辺で捕獲できるシカ・イノシシなどの骨や角、歯牙が素材となっていますが、クジラやサメ、エイなど、海に生息する動物や魚の骨や歯などを素材としたものも見つかっています。また、銚頭や組み合わせ式ヤス、鉤先など、仙台湾周辺の貝塚で多く出土する漁具や製塩土器も見つかっており、海辺のムラとの交流がうかがえます。

みどころ 3 多彩な装身具。

漆塗りのくしゃや、赤く塗られた首飾りや耳飾りなど多彩なアクセサリーが見つかっています。なかには、サメの歯や骨でできた垂飾品も。ここにも海との交流がうかがえます。

